

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：33801

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18319

研究課題名（和文）住まいの屋外空間における生活者によるデザインの実態とプロセスの研究

研究課題名（英文）Study of the Actual Situation and Process of Design by Occupants on the Outdoor Spaces of Houses

研究代表者

堤 涼子（Tsutsumi, Ryoko）

常葉大学・造形学部・講師

研究者番号：10816135

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：住まいの屋外空間において、生活を営むうえで行われる日常における農業や商業など生業に関わる利用、年中行事や冠婚葬祭などの非日常的な利用に対応した空間を生活者がデザインしていることが調査及び文献より確認できた。住まいに対して実測調査及び聞き取り調査を行うことで、そのデザインプロセスの検証を行なった。デザイン学の知見から、デザインするときに考える基本的な3つの問題を「道具（対象）」、「かかわり合い（interactions）」、「人間（外部環境）」としているが、住まいの屋外空間における生活者のデザインについては、「かかわり合い」の詳細として、地域性、時代性、利用、思想などがあげられると予想できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

庶民の生活における住まいの屋外空間を対象に、空間構成、意匠、使用方法、任意識、時代的変遷を捉え、そのデザインプロセスと実態について解明を試みた。デザイナーや建築家、造園家といったデザインの専門家が関わっていない生活空間に対し、単なるスタイリングの美しさのみならず、地理的条件や社会的条件に適った成り立ちの美しさについて明らかにし、生活者のデザインとしてデザインの系譜に位置付けることを目的としている。長い時間をかけて経験則から生み出された、その生活者によるデザインを評価し、学ぶことで、文化財の活用やこれからの生活に資するデザイン研究を目指す。

研究成果の概要（英文）：With regard to outdoor spaces, it was confirmed through research and literature review that occupants design these spaces for daily use related to their occupations such as agriculture and commerce, and for extraordinary use such as annual events and ceremonial functions. The design process of the residences was verified by conducting an actual survey and interviews. Based on the findings of design studies, the three basic issues to consider when designing are "tools (objects)," "interactions," and "people (external environment)." With regard to the design of occupants on the outdoor spaces of residences, we could expect the details of "interactions" to include regionality, period, use, and thought.

研究分野：デザイン学

キーワード：住まい 庭 生活者のデザイン

1. 研究開始当初の背景

アメリカのスタンフォード大学では「d.school」プログラムづくりをとおして、ティム・ブラウンらが「デザイン・シンキング」を唱えると、日本にて「デザイン思考」という言葉が生まれた。わが国においても東京大学 i.school をはじめ総合大学にて様々なデザインプログラムが行われている。それらは、様々な学術研究を学問知として蓄積するのみならず、その成果とプロセスを実社会に活かすものとして捉えられている。しかしながら、美術・芸術分野における「デザイン」は、思考と共に表現行為が伴う。須永剛司、永井由美子らによるデザインの実践におけるデザイン知ワークショップ(須永剛司・永井由美子「実践するデザイナーたちのデザイン知とはなにか?」、『デザイン学研究特集号第21巻3号通巻83号 特集：実践するデザイナーたちのデザイン知』、日本デザイン学会、2014)にて、今まで感覚的に捉えられていたデザインの専門家がデザインを完成させていくプロセスを「デザイン知」として報告している。それらはデザインの専門家のみならず人びとが皆もっている「あたりまえの知」とされる「デザイン知」を探求する研究として重要であり、生活者が営みのなかで行って来た経験則による、ものを創り出す行為と類似していることが予想される。本研究は、デザイン学における「デザイン知」研究の一端であり、生活者によるデザインの実態を明らかにすることで、造園学における庶民の住まいの屋外空間の学術的価値を検討するための基礎資料にもなると考えている。

2. 研究の目的

デザインの実践において、そのデザインプロセスを主たる対象として研究がされてきたのは、須永剛司らによる研究であり、その成果は『デザイン学研究特集号第21巻3号通巻83号 特集：実践するデザイナーたちのデザイン知』(日本デザイン学会、2014)として、わずかにまとまっている。「デザインの知」は、デザインする専門家のみでなく人びとが皆もっている「あたりまえの知」である(須永剛司「芸術的で直観的なプロセスを内包するデザイン実践の認識論」前掲書)として、デザインはデザイナーのみによるものではないことが指摘されている。しかし、その対象はデザインの専門家によるデザイン知を中心に捉えて分析、考察したものであり、デザインの専門家ではない人々のデザインについて詳細を把握した研究は皆無である。そこで本研究では、デザイナーや建築家、造園家といったデザインの専門家が関わっていない生活空間に対し、民俗学的視座ではなくデザイン学の視座から、その成り立ちの美しさに着目し、生活者による営みの中で生み出されたデザインが、どのようなデザインプロセスで形成されたのか、生活者のデザインの実態と方法を明らかにし、生活者のデザインとしてデザインの系譜に位置付けることを目的とする。このデザインの専門家でない生活者によって造られてきた住まいの屋外空間を取り上げる点が本研究の学術的な新規性である。実際に住まいの屋外空間に訪れ実測調査により正確な記録を取りその空間構成、意匠を把握し、生活者への聞き取り調査及び資料文献調査を行うことで、使用方法や住意識、時代的変遷を捉えていく。それは、庶民の生活に関する調査研究が行われている民俗学、庭園についての考古学的、美術史的研究が行われている造園学やフィールドサーベイの手法として研究が行われている環境デザイン学の知見を総合的に活かし、デザインを分析することに独自性がある。長い時間をかけて経験則から生み出される、生活者によるデザインプロセスを解明することは、民家の並ぶ集落などの修景や街並み保存にみられるように文化財の活用やこれからの生活に資するデザイン研究の一助となると考えられる。

3. 研究の方法

本研究で明らかにする課題は、以下3点である。

実測調査及び聞き取り調査による実態の把握、事例収集

資料文献調査による事例収集

、を踏まえた生活者によるデザインプロセスの検証

すでに基礎研究として、埼玉県、茨城県、福島県、和歌山県、石川県、兵庫県の住まい13軒の屋外空間を調査し、実態とデザインプロセスを博士論文にて検証していたが、基礎研究を基に現存する住まいに対し、さらに詳細を明らかにする実測調査を行った。ドローンを用いた実測を行い、画像や数値データによる記録、一部においては図面化することで、さらに実態の詳細を捉えることが可能となった。また、聞き取り調査によって生活を営むうえで使用する屋外空間の詳細を明確にすると共に、明治・大正・昭和期から現代に至るまでの使用方法や住意識の変遷に対する実態の変化を明確にすることで、生活者のデザインの条件とそのプロセスを明らかにする。また、住まいの屋外空間では農作物の栽培や収穫・加工などの農作業の他に年中行事や人生儀礼などが行われている為、民俗学の調査や研究資料など文献による事例収集を行った。

4. 研究成果

住まいは、生活を営むうえで行われる日常的な生業に関わる利用、年中行事や冠婚葬祭などの非日常的な利用などに対応した設備や空間を備えることが調査および文献調査より確認できた。屋外空間において、日常における農業や商業など生業に合わせた空間を生活者がデザインしていることを見出した(堤涼子「緑草会編『民図集』にみる住まいの屋外空間:古写真から分析する住環境デザイン」多摩美術大学研究紀要 第32号、pp31-40、2020 および千森督子・堤涼子「根来寺門前町の街並みおよび町家 - 西坂本の近代町家の特徴について - 」和歌山信愛大学教育学部紀要 第2巻、pp31-40、2020)。また、非日常においても同様であった(堤涼子「住まいの屋外空間と民間信仰」多摩美術大学研究紀要 第33号、pp155-161、2019)。

生活者が営みのなかでものを創り出す行為としてのデザインプロセスについては、住まいに対して実測調査および聞き取り調査を行うことでその詳細の検証を行なった。住まいの屋外空間は、地域性、時代性と共に施主の思想が反映されている事例がみられた(植田道則・土屋和男・内田青蔵・小沢朝江・新妻淳子・堤涼子「浜松市・高林邸主屋・隠居について 近代における「民藝」と「田舎家」の相関と展開・その4」日本建築学、2023 予定および伊達剛・土屋和男・堤涼子「川端龍子修善寺別邸について」日本建築学会、2023 予定ほか)。

デザイン学の知見から、デザインをするときに考えるべき基本的な3つのデザインの問題を「道具(対象)」、「かかわり合い(interactions)」、「人間(外部環境)」としているが(須永剛司『デザインの知恵 情報デザインから社会のかたちづくりへ』フィルムアート社、2019)、屋外空間における生活者のデザインについても同問題が検討されていると捉えられる。その「かかわり合い」の詳細として、地域性、時代性、日常・非日常での空間の利用方法、施主の思想などがあげられると予想できる。しかしながら、デザインプロセスの検証については、実踏調査の遅れにより事例の収集が不足しており、さらなる調査研究が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 堤涼子	4. 巻 159
2. 論文標題 ドローンをを用いた民家調査の実験	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民俗建築	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千森督子・堤涼子	4. 巻 2
2. 論文標題 根来寺門前町の町並み及び町家 西坂本の近代町家の特徴について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和歌山信愛大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 31 - 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 堤涼子	4. 巻 8
2. 論文標題 日本庭園における富士信仰の影響について：六義園を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多摩美術研究	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤涼子	4. 巻 33
2. 論文標題 住まいの屋外空間における空地と民間信仰の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多摩美術大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 155-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 植田道則・土屋和男・内田青蔵・小沢朝江・新妻淳子・堤涼子
2. 発表標題 浜松市・高林邸主屋・隠居について 近代における「民藝」と「田舎家」の相関と展開・その4
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 土屋和男・植田道則・内田青蔵・小沢朝江・新妻淳子・堤涼子
2. 発表標題 浜松市・高林邸主屋・隠居について 近代における「民藝」と「田舎家」の相関と展開・その5
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊達剛・土屋和男・堤涼子
2. 発表標題 川端龍子修善寺別邸について
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 一般社団法人 日本民俗建築学会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 彰国社	5. 総ページ数 272
3. 書名 民家を知る旅 日本の民家見どころ案内	

1. 著者名 編集 森隆男	4. 発行年 2019年
2. 出版社 柊風舎	5. 総ページ数 644
3. 書名 住の民俗辞典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------